

SNSの利用実態から見た留学生の コミュニケーション・プラットフォーム

佐々木 泰 子

1. はじめに

近年、インターネットやスマートフォンの普及によりLINE、Facebook、Twitterなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（以下SNS）の利用が急速に増加している（総務省 2012他）。日本人の若者に関して、このような新しいメディアの発達にはコミュニケーションの活発化、親密化を促す一方で対人関係の様々な問題の要因となっていることが指摘されている。佐々木・船戸（2014）では中国、タイ、台湾、韓国の大学生のSNSの使用状況を調査し、これらの国々でもSNSは大学生の間で高い使用率を示していることを報告している。一方、日本で学ぶ留学生も日本人、あるいは留学生との連絡先としてFacebookやLINEのアドレスを交換する場面がしばしば見られる。またこれらのメディアは日本での人間関係だけでなく、母国に住む家族や友達とのコミュニケーション、そして情報の発信や収集などにも利用されている。

日本の留学生数は2013年5月1日現在、135,000人を超え（日本学生支援機構 2014）、「留学生30万人計画」により今後ますますその数が増えることが予想される。村田・古川（2014）では、留学生にとって対面場面だけでなくSNSを利用したインターネット上の空間も相互支援の場となる可能性を指摘している。また佐藤（2013: 347）が、「インターネットに代表される新しいメディアが急速に普及し、2010年代の今ではそれらを抜きにして言語使用を語ることができない」と述べているように、SNSを留学生がどのように利用しているのかも明らかにされる必要があるだろう。しかし、留学生のSNS使用の実態については、ほとんど明らかにされていないのが現状である。

ここでは、まず本研究におけるSNSについて定義する。本研究では、Boyd and Ellison（2007）を参考に、「web上で個人がシステム内で自分のプロフィールを作成したり、つながりのある他の人のリストを示したり、見たりすることのできるサービスで、他ではできない社会的ネットワークを可能にするもの」とする。たとえばSNSの一つで世界的な広がりを見せるFacebookを例にすると、ユーザー登録を行うと、自分の名前や出身地、趣味などのプロフィールを作成することができ、写真をアップしたり日記を書き込んだりすることができるようになる。それを「友達」として認証された人たちが閲覧可能になる。自分も友達のページを見ることができ、メッセージの交換や同じ関心を持つユーザーグループへの参加もできる。そのようなコミュニケーションや情報共有などを通してオンラインのコミュニティを形成し、つながりを広げたり深めたりすることができる。

一方、コミュニケーション技術の発展は、リアルのみならずバーチャルに人々の交流・交歓の場を創成

している。そのようなネットワークの構築にとってハード面の条件として不可欠なのは、いうまでもなくソーシャル・メディアなどであり、人々がコミュニケーション・ネットワークを利用する際、どのメディアを用いるかについて真剣な選択が行われる。具体的には、郵便・電話・インターネット等々のメディア間で、いずれかの伝達手段が選択される。しかし、コミュニケーションに際して、伝達手段の選択と同様に重要な意思決定がなされるのは、交流・交歓の「場」の選択であろう。どのような「場」を選択するかということは、とりもなおさず帰属するコミュニティを決定することになるからである。そのような創成機能を果たしている「場」のことを、ここでは、「プラットフォーム」と呼び、「メディア」やメディアで使用されるソフトである「アプリケーション」の概念から区別して用いる。具体的には、例えば、同一メディアの範疇に属し異なるアプリケーションであるFacebookやTwitterの別がこれに当たる。なお、一般的に、人々は複数のプラットフォームを所有し、何らかの理由で（例えば、友人関係を管理するために）使い分けている。そのような状況は、時に「マルチ・ホーミング」などと呼ばれることになる。

本研究では、このようなつながりを促進するSNSの機能に着目し、SNS利用の実態から留学生のコミュニケーション・プラットフォームの一端を明らかにすることを通して、留学生教育への示唆を得ることを目指す。なおサービスの内容はそれぞれのSNSで異なるが、本研究では、Facebook、Twitter、人人網、Weibo（微博）、QQそしてメッセージ交換や通話を中心のLINE、Skype、WeChat（微信）、WhatsApp、Viber、KakaoTalkをSNSとしている。

2. 先行研究及び研究課題

ここでは、留学生のSNS利用に関する三つの研究を、次に留学生と同じように文化を超えて移動する移民の異文化適応へのSNS利用の関係について論じた研究を紹介する。

松沼（2012）は、言語管理理論をベースに言語逸脱の観点から調査を行っている。日本語学習者は日本での生活において様々なメディアを利用してコミュニケーション行動を行っており、もっとも多く利用されているメディアはTwitter、Facebook、Mixi、MSN、Skypeを含むSNS（30.9%）であるとしている。

正宗（2013）では、東日本大震災における外国人や留学生のコミュニケーション行動について、普段と震災時の比較からその特徴を探っている。その結果、普段よく使うコミュニケーションツールは、無料のソフトウェアで使えるパソコン・ベースのものが69%を占めており、携帯電話やスマートフォンは6%と少数派である。中でもFacebookやSkypeはよく使われており、中国人の場合は独自サービスのQQメール等の利用率・依存度が高いことが報告されている。一方、震災時には携帯電話、一般加入電話およびSkypeの通話サービスの合計で全体の74%に達し、携帯メールやSMS、SNS、パソコンメールなど文字通信は2割程度に留まったことが報告されている。

村田・古川（2014）では、大学進学を目指す東アジア諸国出身の留学生が大学受験に際して家族や友人からSNSを通してどのようなサポートを受けているかについて、留学生20名を対象にした半構造化インタビューおよび通信記録を基に分析を行っている。その結果、LINEなどのメッセージ機能を利用した、同時期に留学した仲間同士、同じ出身国の友人同士、家族、学生寮の深夜のオンラインサポートなどのSNSによるやり取りとともに、Facebookによる情報共有や学習面での相互支援など受験期の留学生にSNSが大きな役割を果たしていることを明らかにした。このことから越境する若者にとってオンライン上のスペースが、人とのつながりの中で自己表現し、他者との関係性の中で成長していくスペースとしての役割を果たす可能性を示唆している。

Croucher (2011) は、移民の主流文化への適応について、これまでインターネットやSNSなどの新しいメディアの影響についてはほとんど注目されてこなかったことを指摘している。しかし、SNSは、移民という越境する人々にとってすでに一般的なツールであり、同国人とのつながりや、移住先の文化、つまり主流文化環境とのつながりを強めるのに重要な役割を果たしていると述べている。そして、今後SNSがどのように適応に影響をもたらすのかを知るうえで以下の二つの視点を提案している。一つ目はテレビの視聴が現実の理解に強い影響を与えるというカルティベーション理論に基づいて、SNSの利用の量が移民の主流文化とのつながりに影響を与えるというものである。その視点からSNSの利用時間やSNSを通じた主流文化との接触の頻度についての調査の必要性に注目している。二つ目は同グループの結束から生まれる活力はアイデンティティの維持や政治的、経済的力をもたらすという点で重要であり、SNSによってどのようにグループが構成されるかという視点の重要性である。それを探るために、SNS上でどの言語を選択しているか、どのSNSを利用しているかに関する調査を提案している。

これらの研究からコミュニケーション・メディアとしてのSNSにはつながりを促進したり強めたりする働きがあり、文化を超えて移動する人々にとってSNSの果たす役割が今後ますます重要になっていくことが理解される。本研究でもSNSの重要な機能の一つであるつながりの構築、促進に着目して、SNS利用の実態から留学生のコミュニケーション・プラットフォームの一端を明らかにすることを目指す。そこで、まずアンケート調査によって従来のメディアとの比較を通して留学生のSNSの使用状況を明らかにする。次にインタビュー調査によってSNSがどのように使用されているのかを考察する。そのために以下のような研究課題を設けた。

研究課題1. 留学生はどのようなコミュニケーション・メディアを使っているのか。

研究課題2. 留学生はどのようにSNSを使っているのか。

2-1 どのようなSNSをよく使っているのか。

2-1 どのような相手とどのようにSNSを使っているのか。

3. 研究の方法

研究課題1の「留学生はどのようなコミュニケーション・メディアを使っているのか」を明らかにするために、アンケート調査を行った。アンケートは、東京及び千葉で学ぶ留学生192名を対象に2013年7月及び8月に実施した。調査では、どのようなメディアや通信アプリケーション（以下アプリ）を利用してコミュニケーションを行っているかについて、インターネットによる選択式（複数回答可）で尋ねた。調査協力者の属性は以下の表1のとおりである。

研究課題2の「留学生はどのようにSNSを使っているのか」については半構造化インタビューを実施した。インタビューは日本語で行い、どのようなSNSを使っているか、またどのように使っているのか

表1 協力者の属性（アンケート）

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 人数 | 192名 |
| 年齢 | 19歳～40歳 |
| 性別 | 男性70名、女性122名 |
| 出身国 | 中国100名、タイ19名、韓国18名、台湾13名、その他(23か国)42名 |

表2 協力者の属性（インタビュー）

| | |
|-----|--|
| 人数 | 28名 |
| 年齢 | 21～33歳 |
| 性別 | 中国（男性8名、女性8名）、その他（男性2名、女性10名） |
| 出身国 | 中国（16名）その他（12名；タイ4名、韓国2名、台湾2名、ベトナム2名、アメリカ1名、クロアチア1名） |

*滞日期間は3か月から6年であり、ほとんどは2年以上である。

について尋ねた。調査時期は、2014年6月及び7月である。対象としたのは都内の大学で学ぶ留学生28名で、日本語能力はN1以上である。留学生のほとんどは東アジア諸国出身で、半数以上は中国出身者である。協力者の属性は表2のとおりである。

4. 結果

4.1 研究課題1 留学生はどのようなコミュニケーション・メディアを使っているのか。

アンケートの結果は図1のとおりである。図1を見ると従来から使われてきた電話やEメールとともに近年急速に発達したSNSの利用が顕著である。SNSの利用は、LINE、Facebook、Skypeの順に多く、Twitterはあまり使われていない。またQQ、WeChat（微信）、人人網、Weibo（微博）、KakaoTalkなど中国や韓国では多く利用されているが、日本ではあまりなじみのないSNSの利用も見られる。

4.2 研究課題2 留学生はどのようにSNSを使っているのか。

4.2.1 どのようなSNSをよく使っているのか。

「どのようなSNSをよく使っているのか」について、以下のような留学生の語りがあった。それぞれの語りの後の括弧内のアルファベットと数字は表3の留学生に対応しており、Cは中国人留学生をOはその他の国の留学生を表す。なお留学生の語りはそのままの表現で引用されている。

「でも基本的に、家に着いたら、まずパソコンを立ち上げて、Skypeを開いて」(O3)、「一応パソコンをオンにしてQQで何かメッセージを残して、帰ったら見るという感じになっているんです。」(C16) というように部屋にいるときはいつでもメッセージが来たら見たりそれに返事をしたりできるようにしてあったり、「朝起きて、1回チェックして、お昼ご飯を食べながらもうちょっと見たりして、夜寮に帰ったらもう一回寝る前に。電車の中でもし、はい、やることがなかったら見たりもします」(C4) や「前は、多分、一番親しい××（留学生の母国）^{註①}の友達と結構メールやりとり、毎日メールやりとりしてましたが、今はもうしません。FacebookかLINE。だけど前はメールはやっぱメッセージが長かったです、今はもう短いけど、例えば1日に何回もメッセージします」(O6) のように一日に何度もやり取りをしたりしている様子が語られた。使い方に関しては、「(FacebookやTwitterについて) 私は見るだけです。アップをしたりはしません。LINEは友達との連絡。電話の機能としてよく使っています。3月からはLINE電話を使っています」(C4)、「Skypeをお姉さんと。ビデオチャット。両親とも」(C5)、「母がFacebookのメッセージで来る。自分が暇なときにメッセージを送ってくるんです。私が暇なときに返すという形なので、それは習慣。2日間に1回。自分の情報は今は忙しいので投稿していません」(C9)

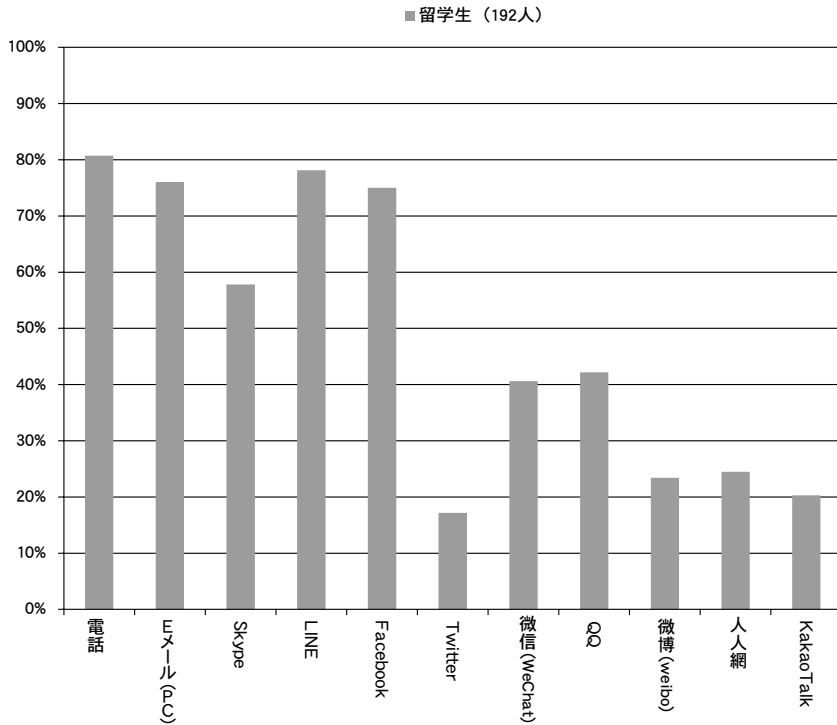


図1 留学生が利用しているメディア

のように利用の仕方は様々である。また「来たばかりの時には毎日。今は週2、3回。長い時は1時間～2時間。(母親と)顔を見て話しています。おしゃべりしています」(C2)のように来日直後は毎日のように家族と話していたのがしばらくして日本の生活に慣れてくるとSNS利用の頻度や時間は減ってくる。つまりパソコンでいつも見られるようにしておく、1日に何度も細かくチェックする、見るだけ、文字チャットをする、自分も情報をアップする、電話として利用するなど利用時間や頻度、利用の仕方は様々であり、また来日からの時間の経過や忙しさなどによっても利用時間は変化している。

そこで、協力者28人がどの程度SNSを使っているかを比較するために、メディアごとにインタビューでの語りをもとに頻度や時間、利用の仕方などを考慮して「とてもよく使っている」から「使っていない」までの5段階で数値化することを試みた。手順は、まず調査者がインタビューの語りをもとに協力者及びメディアごとに「5. とてもよく使っている」「4. よく使っている」「3. 使っている」「2. あまり使っていない」「1. 使っていない」の5段階に数値化したものを協力者に見せて、協力者の実感と異なっているものについては話し合いの上、修正した。そのような手順で留学生のインタビューに出てきたアプリすべてを数値化し、そのうち1及び2は省略し、5の「とてもよく使っている」、4の「よく使っている」を太字で表したものが表3である。表3のC1～C16までは中国人留学生、O1～O12はその他の国の留学生を表す。

表3から、留学生にはそれぞれ「とてもよく利用している」あるいは「よく利用している」二つないし三つのSNSのアプリがあり、SNSがよく利用されていることが分かる。「Facebookは××(留学生の母国)の時から。けっこうはまっている方。もうFacebookを使う時間は、もう本当にすごい時間がかかっ

てしまうので、最近はあまり使わないようにしてるんです。アップすると、何か今、日本に来てるので、みんなもすごい何か私の日本での様子を知りたがっているし、アップすると、すごいみんないろいろ「最近どう？」と、そこはいっぱい質問が来てるので、あれを返事するともっと時間がかかるから。(しないようにしている)」(O12)、「Facebookは日本に来たころから今年の3月まで何か熱心にやってきました。最近は何かやっぱりずっとそれをFacebookとかSNSに時間を使い過ぎたと思ったので、自分からできるだけそれをしなくなっただけですね」(C12)、「(Weiboを)見るでしたら、結構1時間、1時間半ぐらいも。(やりすぎないように)一応自分でコントロールもできます。例えばWeChatは今の携帯に入ってなくて、いつも家に置いてあるiPadに入っているんです」(C4) という語りからもSNSをよく利用しており、

表3 メディアごとの使用量

| 留学生 | 電話 | Eメール | skype | Line | face book | twitter | 微信 wechat | QQ | 微博 weibo | 人人 網 | kakao talk | face time | viber | Whats App |
|-----|----|------|-------|------|--------------|---------|--------------|----|-------------|---------|---------------|--------------|-------|--------------|
| C1 | 4 | 3 | | 5 | 3 | | 5 | 3 | 5 | | | | | |
| C2 | 3 | 5 | | 4 | 3 | | 4 | 4 | | | | | | |
| C3 | | 3 | | 4 | 3 | | 5 | 3 | | | | 4 | | |
| C4 | 3 | 4 | | 4 | 3 | | 4 | | 5 | | | | | |
| C5 | | 4 | 3 | | | | 4 | 4 | 4 | | | | | |
| C6 | | 5 | 3 | 5 | 3 | | 4 | 4 | 3 | | | | | |
| C7 | | 3 | | 3 | | | 5 | 5 | 4 | | | 4 | | |
| C8 | | 5 | 4 | 4 | 3 | | 4 | 5 | | | | | | |
| C9 | | 3 | | 3 | | | 4 | 4 | | | | | | |
| C10 | | | 5 | 3 | 3 | | 3 | | 3 | | | | | |
| C11 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | | 5 | 5 | 3 | | | | | |
| C12 | | 3 | 5 | 4 | | | 5 | 5 | | 3 | | | | |
| C13 | | 3 | 3 | 3 | | | 5 | 3 | 5 | | | | | |
| C14 | 3 | 4 | 5 | 4 | | | 5 | | | | 3 | | | |
| C15 | 3 | 5 | 4 | 5 | | | 3 | | | | 5 | | | |
| C16 | 4 | 4 | 3 | | 3 | | 5 | 4 | | | 3 | | | |
| O1 | 4 | 3 | 3 | 5 | 4 | | | | | | 4 | | | |
| O2 | 4 | 3 | | 5 | | | | | | | 3 | | | 5 |
| O3 | 3 | 5 | 4 | 5 | 5 | | | | | | | | | |
| O4 | | 3 | 5 | 5 | 4 | | | | | | | 3 | | 4 |
| O5 | | 4 | 5 | 5 | 4 | | | | | | | | | |
| O6 | | 4 | 4 | 5 | 5 | | | | | | | | | 3 |
| O7 | 4 | 4 | | 5 | 5 | | | | | | | | | |
| O8 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | | | | | | | | | |
| O9 | | 3 | 3 | 5 | 5 | | | | | | | | | |
| O10 | 4 | 3 | | 3 | 3 | | | | | | | | | |
| O11 | | 5 | 4 | 5 | 4 | | | | | | | 5 | 5 | |
| O12 | 3 | 4 | | 5 | 5 | | | | | | | 4 | 5 | |

むしろ使い過ぎないように気を付けていることが分かる。

さらに表3を見ると、よく使われているSNSが、C1からC16までの中国人留学生とO1からO12までのその他の国からの留学生とでは、違っていることが分かる。中国人留学生は中国のSNSの利用が多く、Facebookの利用は他国の留学生より少ない。次節ではどのようにSNSを使っているのかについて分析し、なぜこのような違いがあるのかについて考察する。

4.2.2 どのような相手とどのようにSNSを使っているのか。

SNSはそれぞれ機能が異なり、SNSによって相手とのつながり方が違ってくるが、インタビューからはどのSNSを使うかには相手と目的が関わっていることが示唆された。そこで相手及び目的とSNSの選択についての関わりを留学生の語りから見てみることにする。

4.2.2.1 相手

(1) 相手が中国人かどうか—中国人留学生の場合

中国人留学生にのみ利用が見られるSNSであるWeibo、QQ、WeChat、人人網は、中国人同士のやり取りに限定された使い方がされていることが次のような中国人留学生の語りから分かる。

中国人留学生の間で最もよく利用されているWeChatについては、「中国人の友達とは中国のLINEみたいなアプリを使っています。WeChat。日本にいる中国の友達もWeChat。ほんとに理由はなかったんですけど何となく。友達はWeChatからメールとか送ってくるので、返事をするときもそれを使ってます」(C4)という語りが見られる。Weiboについては、「毎日の生活の記録とか、それから中国にいる友達に私は毎日こういう生活を送っているよというような、ちょっと情報発信みたいな送ってきて」(C4)とこれらのアプリが中国人留学生や中国にいる友達に向けて使われていることが分かる。「なんかこれを作って誰に見せたいか、なんか選んでますね。なんか日本人の友達とか、日本にいるネットワークの人に见せたいならFacebookでアップするんですけど、中国にいる友達に見せたいならWeChatで」(C2)というように中国にいる友達への情報発信にはWeChatが使われている。「WeChatは大体中国人でしょうね。韓国にいる中国の友達、中国にいる友達、こっちにいる中国の友達。普通だと全部中国人。すごくやってます、それは。私は書いてないけど、連絡あったら返事するとか、「最近どうなの」とかをして。でも友達はそのWeChatもLINEみたいな自分のストーリーを載せるところがあるので、みんなそっちに、いろんなメッセージとか写真とか送るから、そういうのを見て楽しいなと思って」(C7)、「(アルバイト先の中国人同士で) WeChatでグループをつくってみんなで何か情報があったら。共有させていることもあります」(C13)というように、中国人留学生には、相手が中国人かそれ以外かという使い分けのルールがあることが分かる。

(2) 相手と親しいかどうか

中国人留学生のSNSの選択には相手が中国人かどうか重要な選択の基準であることが分かった。では他国の留学生はどうだろう。他国の留学生にも相手による使い分けは見られるが、それは「LINEは、うん、身近に感じるかな。身近なものとして、日常会話のようなもので。LINEならもっと身近な情報を交わしたりするんですね。Facebookは、もう距離があっても、久しく会ってない人も、何かメッセージのやりとりはするんですが」(O5)、「国にいたときよりも日本にいるときのほうがLINEとかも数が多くなっている。一番親しいのはLINEを開けます。2番目はFacebook。3番目はメールです。だから3番目のグループに入っていた人はメールです。Facebookは友達とちょっと遠い関係」(O8)というように相手との距離感がアプリ選択の一つの基準になっていることが伺える。

「それ、あまりそういう関係がなければ、あまりLINEする気になりません、実は。日本の友達、前の職場の人でもFacebookです。あんまり投稿の数が少ないんですけど。日本人とどうやって、気軽に連絡するというのがあんまりできなくて。いきなり「元気？」とかみたいに言っても、何か用がないからどう雑談すればいいのかわからないという感じなので。多分Facebookだと広がりやすいんです。すぐ、例えばLINEだと（アドレスを）交換しないとお友達になれないじゃないですか。Facebookだと、「あなたの知り合いではありませんか」みたいなのが出てくるので、「それは××（自分の大学の名前）の子だ」みたいになって、追加されたり、追加したりする」（O10）の語りからはFacebookの距離感があまり気楽でない日本人の友達とのコミュニケーションに利用されていることが分かる。

相手との距離感によるSNSの選択は他国の留学生だけでなく、中国人留学生にも見られる。「QQとWeChatは基本的に自分に仲がいい、そして小さいころからずっと遊んでいる友達とか。つまり関係がいい友達の間に使っている場合が多い。（それに対して）人人（人人網）はそんなに別に知り合いではない人も、結構環境はネットワークをつくって」（C13）と語っている。また次のように意識して使うアプリを管理しているという語りもある。「僕は、結構管理してるんです。だれかと話す、何を使うのか、自分でちゃんと管理してるんです。例えば日本人の友達と、日本に滞在している中国人の友達は、絶対LINEを使います。中国にいて結構親しい友達だとしたらWeChatを使います。あまり知らない方、ネットでつくれた友達、多分会ったことのない友達だとしたらQQを使います。だから僕はきちんと自分で管理してるんです」（C16）。

また距離感だけでなく、「親の携帯にはQQとWeChatしか入っていない」（C1）、「ルールは多分その人によって。もしWeChatを使っているなら、じゃあWeChatで。もしLINEを使っているならLINEで。両方使うなら好きなほうに」（C9）、「例えば私はSkypeを持っていますが、友達がSkypeを持っていない場合は、友達はWeiboのほう、じゃあ私も申請してWeiboと、一緒につながって連絡します」（C6）、「最近の中国人の友達だとしたら、もうずいぶん適当になっているかもしれないんですけど、例えば「君は何を持っているんですか」「QQ持っています？ QQ持っていなかったらWeChat持っています？」「WeChat持っていなかったら、じゃあLINE持ってます？」とかそういうものをいろいろ聞かれるんです。何がなかったら別のものを探すということが結構最近増えていると思います」（C16）というように、自分の基準だけでなく相手がどういうSNSを使っているかという、相手の状況による選択も見られる。

（3）相手が家族の場合

母国の家族、特に両親とは定期的な連絡を取っている留学生がほとんどであった。「で今WeChatが主に親、親、親達と連絡用、です。なんか音声メッセージを送れるので、親達がやっぱり字を打つのが遅いので。声で、でもちょっとあの電話するとは違って、なんか今録音してて、送って、この「おはよう」って録音して送ってこういう感じです。ほとんど毎日ね、ひとことばでも。一中略一月から金までは、WeChatというアプリがありますでしょう。それで連絡してるんです。土と日だとしたら、一応時間をとってSkypeします」（C1）、「ビデオ通話ができます。多分、操作もそこまで難しくない。××（出身国）語のバージョンもありますから、それを母には使いやすいと思ひまして。日曜日の夜、母とSkypeします」（O6）という語りからSkypeが顔を見ながら話せるアプリとして家族とのやり取りによく使われていること、また「ほぼ毎日、父とLINEしてます。例えば、晩ご飯食べましたかとか」（O3）、に見られるようにSNSを使って両親と定期的な途切れることなく連絡を取り合っていることが理解される。

4.2.2.2 コミュニケーションの目的

SNSの選択には、相手だけでなくどういう目的でSNSを使うかも関係している。「Facebookは、私の

新聞みたいな感じ。で、(ブログと違って) Facebookは私、見せたい人だけ。報告。毎日」(O8) という Facebook についての語りや「(Weiboは) 毎日の生活の記録とか、それから中国にいる友達に私は毎日 こういう生活を送っているよというふうな、ちょっと情報発信みたいな送ってきて。Weiboはなくなった ら何か記録の媒体がなくなってしまうので、ちょっと寂しくなるかもしれないです。—中略— (Weibo の) 在日の女性博士のグループに入っています。1日一回ぐらいしています。ここに投稿することもあります」(C4) という Weibo についての語り、また「LINEはやっぱりメッセージだけ。メッセージが、通知が早く着きますし、Facebookはやっぱりちょっと違います。Facebookでは見やすいからパソコンでも結構使えますから、おもしろい動画あるいは写真を載せるために使います。LINEのほうが携帯で見やすいと思って、もし重要な連絡があるときLINEを使います。通話もできますし、だからLINEはすぐ連絡をとりたいたなら、例えばだれかが遅れてるときはやっぱりLINEを送ります。Facebookはそこまで時間が、返事が遅くても大丈夫なとき、Facebookを使います」(O6) のようにLINEとFacebookを機能で使い分けている語りもあった。

5. 結果のまとめ及び考察

「留学生はどのようなコミュニケーション・メディアを使っているのか」については、従来のEメールや電話も利用が多いことが明らかになった。一方でSNS、中でもLINE、Facebook、Skypeをよく利用しており、またQQ、WeChat、Weibo、KakaoTalkなど中国や韓国では多く利用されているが、日本ではあまりなじみのないSNSの利用も見られる。

次に、「どのようなSNSがよく使われているか」に関しては、インタビューの語りから、中国人留学生にはWeChat、LINE、QQが友達とのコミュニケーションによく使われていることが分かった。それに対して他の国の留学生にはLINE、Facebookが良く使われている。Skypeは母国に住む家族と相手の顔を見ながら話す手段としてよく使われている。つまり留学生にとってSNSは家族や友達とのつながりを強める役割を果たすものと言うことができるだろう。

「どのような相手とどのようにSNSを使っているのか」については、中国人留学生は、中国ではLINEが使えないという事情から、他の国の留学生とは違った使い分けをしている。つまり、他の国からの留学生に比べて中国人留学生は、日本にいても同国人や出身国である中国を意識することが多いことが推察され、中国人としてのアイデンティティが意識的、無意識的に関わらず日々のSNSの利用を通して顕在化する結果になっていることが示唆された。

また、これらのSNSの利用方法は、1日に何度も細かくチェックする、見るだけ、文字チャットをする、自分も情報をアップする、電話として利用するなど様々であり、留学生の生活の一部になっていることも示唆された。また来日からの時間の経過や忙しさなどによっても利用時間は変化しており、使用量を頻度や時間で単純に比較することはできないが、留学生が使いすぎないように注意しなければならないと考えていることから、SNSは留学生によく利用され身近なコミュニケーション・メディアとなっていることが理解される。Croucher (2011) ではカルティベーション理論に基づいて、SNSの利用の量が移民の主流文化とのつながりに影響を与えると述べている、SNSの利用と日本文化とのつながりに関する留学生の語りはほとんどなく、テレビの視聴がもたらす主流文化理解とは違って、留学生のSNSの利用は、友達や家族とのコミュニケーションにかなりの時間が割かれていることが推察される。

もちろんSNSを多用している留学生ばかりではなくO10のようにSNSをあまり使わず連絡は電話です

ませている留学生もいるだろう。また「やっぱり同じ空間で何を共にしているということはないから。ただ、こう、友達関係が遠くなるということを維持するための手段です。だからあんまり友達関係がもっと深くなっているということは全然ないと思います」(C7)や「私が好きなのは、会って話したほうが好きです。機械じゃないですか。私は直接のほうが良いと思ってて。多分タイプが面倒くさいじゃないですか、私にとって。電話とか直接会ったら、すぐ自分の意図が伝わるじゃないですか。ネット上とか機械を通して全然何か心とか愛情とかもっとそんなつながりができるとは思ってないです」(C10)、あるいは「あ、そこ(毎日)までないです、でもWeChatはLINEと同じくなんか、えーとタイムラインみたいなところがあって、自分のなんか今の状況とかつぶやきみたいなアップすれば、その別に普段チャットとかしてなくてもそれを見たら友達がなんかコメントみたいな書くし、書いて、それでなんか連絡を保ってるような感じです」(C2)という語りからは、留学生自身も対面コミュニケーションの持っている豊かさがSNSにはなく、SNSによるつながりは緩い連帯であり、途切れることはないが深まることはないつながりであると捉えていることが伺える。

しかし、大半の留学生たちは自分に合ったやり方でSNSを効果的に使って情報発信ややり取りを行い、出身国の家族や友達、そして出身国の留学生同士とのつながりを保持、促進していることが本研究では認められた。この点は、村田・古川(2014)で明らかにされた留学生のオンラインのサポートが、同時期に留学した仲間同士、同じ出身国の友人同士、家族などの限られた人間関係から得られたものであったのと共通する。つまり西出(2012:41)が「そもそものSNSは、現実の社会関係を基礎にオンライン・コミュニティを形成する」と述べているように、本研究で対象とした留学生にとっても、SNSは本来彼らを持っていた出身国とのつながりを維持し深めるようなプラットフォーム、つまり交流・交換の場の役割を果たしていることが示された。つまり留学生のSNSの利用状況からは、Croucher(2011)が述べた同グループの結束から生まれる活力がSNSによって留学生にもたらされていると言えよう。今後は、SNSを媒介とした実際のやり取りを分析することによって、留学生にとってSNSがコミュニケーション・プラットフォームとして果たす役割とその可能性について明らかにしていきたい。

謝辞

本論文を執筆するにあたり調査に協力してくださった留学生の皆様、そして多くの示唆に富む有益なコメントをくださった査読委員の先生に心より感謝申し上げます。

注

- (1) 留学生の語りに表れる()は筆者が補足した説明である。以下同じ。

付記

本研究は、科学研究費基盤研究(C)「多文化社会におけるコミュニケーションとソーシャルネットワークの構築に関する研究」(平成24年度~26年度 課題番号24520568 研究代表者 佐々木泰子)による研究の一部である。

参考文献

- 佐々木泰子・船戸はるな (2014) 「アジア五か国大学生の非対面コミュニケーションに関する一考察」 日本語教育国際研究大会2014年
- 佐藤彰 (2013) 「コンピュータを介したコミュニケーションの特性」 片岡邦好・池田佳子編『コミュニケーション能力の諸相 変移・共創・身体化』, 347-369.
- 西出崇 (2012) 「大学教育におけるSNS (Social Networking Service) の有用性－立命館大学政策学部における学部SNS運用事例から」『政策科学』 19-4, 39-58.
- 正宗鈴香 (2013) 「東日本大震災における外国人・留学生の情報収集活動とコミュニケーション行動－対面インタビューから見えてきた大学における危機管理対策－」『麗澤大学紀要』 97, 63-86.
- 松沼理恵 (2012) 「メディア接触における日本語学習者の言語管理－留意と評価を中心に－」『外来性に関わる通時性と共時性 接触場面の言語管理研究』 10, 139-156.
- 村田晶子・古川智樹 (2014) 「留学生の第三の居場所：SNSを通じた人とのつながりと相互支援－進学の境界線越えに焦点を当てて－」『異文化間教育』 40, 53-69.
- Boyd, D. M. & Ellison N.B. (2007) Social Network Sites: Definition, History, and Scholarship. *Journal of Computer-Mediated Communication*, Vol. 13, Issue 1, 210-230.
- Croucher, S. M. (2011) Social Networking and Cultural Adaption: A Theoretical Model. *Journal of International and Intercultural Communication*, Vol.4, No.4, 259-264.
- 総務省 (2011) 「情報通信に関する現状報告」『平成23年版情報通信白書』 (<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/html/nc232330.html> 2014年9月30日にアクセス)
- 日本学生支援機構 (2014) 「平成25年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data13.html 2014年9月30日にアクセス)